





鶴岡青年会議所と市社協・ボラセンが連携した最近の主な取組等

- 地域福祉活動計画策定委員に青年会議所役員を委嘱（平成 22 年、27 年）
- 東日本大震災発生後、被災地の子どもたちを赤川花火大会に招待、翌日鶴岡の子どもたちとの交流事業を実施（平成 23 年～）
- 災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル策定委員と、その後組織した災害ボランティアセンター連絡会構成員に現佐藤理事長を委嘱（平成 27 年～）
- 市総合防災訓練の「災害ボラセン設置訓練」スタッフとして、青年会議所員が参加協力（平成 28 年～）
- イオンモール三川で福祉体験「ユニバーサルデザイン」を実施（平成 30 年 6 月）
- 青年会議所 11 月例会で災害研修会「避難所体験」を実施（平成 30 年 11 月）
- 「災害ボランティアセンター運営等に関する協定」締結式（平成 30 年 12 月）

荘内日報

12月28日(金)



災害ボランティアセンターの運営 有事に備え協力体制強化 鶴岡市社協と鶴岡JC協定締結

鶴岡市社協福祉協議会(山木知也会長)と鶴岡青年会議所(JC、佐藤利理理事長)

の市災害ボランティアセンター運営等に関する協定の締結式が26日、同市総合保健福祉センター(こし)ふろーで行われた。鶴岡市社協が運営主体の同ボランティアセンターについて協力体制の強化を図っていく。鶴岡JCでは、2015年から役員が災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル策定委員や同センター連絡会構成員として参加。9月に行われた市総合防災訓練の災害ボランティアセンター設置訓練にもスタンプとして参加した。主催した左月の例会「災害研修会」では避難所体験を実施。今回の協定締結により、これまで培ってきた協力体制の強化を図り、災害時に

備えた人材育成に貢献していくという。この日の締結式には、両団体の役員ら約20人が出席。山木会長が「高齢者から子どもまで5000人へサービスマを行っており、有事の際に災害ボランティアセンターにどれだけマンパワーが割けるか大きな課題だった。ありがた〜く心強い」と、佐藤理事長が「何か起こったときに、動ける人間がいなければ始まらない。しっかりと手を取り合って準備を進めていきたい」とそれぞれあいさつし、協定書に署名した。

秋の味

正月間近。スーパーの食品売り場は、正月のごちそうであふれている。棒タラ、カラカイ、タコ、かまぼこ、栗きんとん、昆布巻き、だて巻き、黒豆など教えれば切りがない。どれも縁起物である。

人はほめてたい事や楽しい事があれば、ごちそうを食べて祝い、喜びをかち合う。ごく当たり前のことだが、昔はそれらの正月料理は家庭で作った。もちろん神様にお供えし、一緒に祝うためである。お節料理は、正月の三日日は主婦が少し休めるようにと、少し多めに作ったというが、家庭料理だから作る量にも限りがあった。

▼お金を払えば何でも好